

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成31年4月18日（木）

3. 調査の対象

泉佐野市立末広小学校 第6学年，全児童

実施児童数（ 70 人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、小学校は国語及び算数，中学校は国語，数学及び英語。

イ 出題範囲は，調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし，出題内容は，それぞれの学年・教科に関し，知識・技能に関する内容と，それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。

ウ 出題形式については，国語及び算数・数学においては，選択式及び短答式に加え，記述式の問題とする。英語においては，選択式，短答式及び記述式の問題に加え，「話すこと」に関する問題の解答は，原則として口頭式によるものとする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に，学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に，学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より，文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は，整数となっております。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じだが、低位層がやや多く分布している。
平均正答率（本校 56／泉佐野市 59／大阪府 60／全国 63.8）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

| 国語 | 特徴がみられた設問 |
|---|---|
| <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】</p> <p>1二 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する。(75.7/63.4)</p> <p>1四(1)イ 一部を漢字を、使って書き直す。 友達にかぎらず (54.3/69.4)</p> <p>(2) の一文を、接続後「そこで」を使って二分に分けて書き直す。(32.9/47.8)</p> | <p>【話すこと・聞くこと】</p> <p>3一 インタビューの様子の「ア」に入る、最も適切なものを選択する。(65.7/81.3)</p> <p>3四 ことわざの使い方の例として、適切なものを選択する。(習うより慣れよ) (51.4/73.0)</p> <p>3三 インタビューの様子の「イ」に入る内容を30～60字以内にまとめて書く。(50.0/68.2)</p> |

3. 学習状況調査より

| 質 問 項 目 | 本校 | 全国 | 10%○ 5%◇ | 差 |
|---|------|------|-------------|------|
| 国語の勉強は好きですか | 47.2 | 64.2 | ○ | 17.0 |
| 国語の勉強は大切だと思いますか | 95.7 | 93.0 | | 2.7 |
| 国語の授業の内容はよく分かりますか | 85.8 | 84.9 | | 0.9 |
| 国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか | 67.1 | 76.9 | ◇ | 9.8 |
| 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝えるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか | 61.4 | 68.5 | ◇ | 7.1 |
| 国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか。 | 65.8 | 71.4 | ◇ | 5.6 |
| 調査問題の解答時間は十分でしたか | 54.3 | 74.2 | ○ | 19.9 |

- 「国語の勉強は大切だと思いますか」の項目では、全国に比べ2.7%上回るものの、「国語の勉強は好きですか」の項目では、全国は64.2%に対し、本校47.2%と17.0%の差がある。自ずと「国語が好き」となるよう、語彙力、読む力、表現力をつけられるような取り組みをしていく必要がある。
- 「自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝えるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか」の項目では、全国に比べ、7.1%下回った。全体の中から内容や意図を捉え、自分の考えをまとめて書いたり、話したりする機会を、学習の中で積極的に取り入れる必要がある。
- 「調査問題の解答時間は十分でしたか」の項目では、全国に比べ、19.9%下回った。時間内に、文章を読み、集中力を持続させ、身に付けた国語の力を出し切れるよう、普段の学習から様々な読解問題などに挑戦する必要がある。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- 平均正答率の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じだが、中位層がやや多く分布している。
平均正答率（本校 64／泉佐野市 65／大阪府 66／全国 66.6）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

| 算数 | 特徴がみられた設問 | |
|---|--|--|
| 【図形】 1(2) 二つの合同な図形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶ。(51.4/60.3) 【量と測定】 1(3) 減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く。(34.3/43.9) | 【数と計算】 3(4) $1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ。(34.3/47.0) | |

3. 学習状況調査より

| 質問項目 | 本校 | 全国 | 10%○ 5%◇ | 差 |
|------------------------------------|------|------|-------------|-----|
| 算数の勉強は好きですか | 67.2 | 68.6 | | 1.4 |
| 算数の勉強は大切だと思いますか | 94.3 | 93.7 | | 0.6 |
| 算数の授業内容はよく分かりますか | 90.0 | 83.5 | ◇ | 6.5 |
| 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか | 71.4 | 76.5 | ◇ | 5.1 |
| 算数の授業で新しい問題に出会った時、それを解いてみたいと思いますか | 72.8 | 79.1 | ◇ | 6.3 |
| 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか | 77.2 | 82.1 | | 4.9 |
| 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか | 85.7 | 87.0 | | 1.3 |
| 調査問題の解答時間は十分でしたか | 77.1 | 84.0 | ◇ | 6.9 |

○「算数の勉強は大切だと思いますか。」という項目で、児童の算数の勉強に対する興味・関心が高い傾向にあることが分かる。(H30 94.3%)

○「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」という項目では、全国より5.1%下回る。算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う必要がある。

○「調査問題の解答時間は十分でしたか（算数A）」という項目では、「時間が余った」「ちょうどよかった」と答えた児童が全国は84%に対し、本校77.1%と6.9%の差がある。出題内容を速やかに捉え、数理的に処理する技能を身に付ける必要がある。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば当てはまる 3. どちらかといえば当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5ポイント以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに下線部に関しては10ポイント以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

| 設問内容種別 | 本校の状況 | 本校 < 本校回答率 / 全国回答率 > |
|-------------|--|---|
| 【家庭生活の様子】 | 早寝・朝食などの基本的な生活習慣は、全国を下回っている。特に就寝時刻が遅い傾向が見られる。 | <input type="radio"/> 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか <68.6/81.4> <input type="radio"/> 毎日、朝食を食べていますか <85.7/95.3> <input type="radio"/> 新聞を読んでいますか <11.5/19.0> <input type="radio"/> 今住んでいる地域の行事に参加していますか <27.2/68.0> |
| 【家庭学習の様子】 | 自ら学習の計画を立てている児童は多いものの、学習時間が全国に比べ短い。読書を好み、すすんでする児童が少ない。 | <input type="radio"/> 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか （1時間以上） <51.5/66.1> <input type="radio"/> 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から日曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか （30分以上） <27.1/39.8> <input type="radio"/> 読書は好きですか <60.0/75.0> |
| 【学校での学習の様子】 | 自分たちで課題を見つけ調べて発表する学習や、グループ等で話し合い意見をまとめる活動を、積極的に取り入れる必要がある。 | <input type="radio"/> 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか <61.4/73.4> <input type="radio"/> 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか <67.2/80.9> <input type="radio"/> 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか <64.3/77.7> |

本校の取組

◎これまでの取組

(1) 研究主題と研究体制

本校では、自分の考えや意見を伝える力を育むために、国語を中心とした「話すこと・聞くこと」を研究主題とし、相手に自分の考えを伝える力を育む授業づくりを進めている。ペア学習やグループ学習の場を積極的に設け、自分の考えを発表している。また、「声のものさし」を提示し、ペアで話す時、全体で発表する時等、場に応じた声の大きさで話せるよう取り組んでいる。また、国語において「語彙力」をつけるために、「ことばプリント」を全学年実施している。

(2) 学習規律の確立 「学びをつくる5つのとびら」

学習に対する姿勢のルールである「学びをつくる5つのとびら」に学校全体で取り組んでいる。①筆箱の中身をそろえよう②下敷きをしよう③姿勢を正そう④友達の話の聞こえよう⑤自分の考えを発表しよう、の5項目から1つの課題を各学期重点目標とし、学習基準の確立に努めている。

(3) 少人数・習熟度別指導

3年生から6年生は、学級担任と少人数担当による習熟度別に分割した授業を行い、児童一人ひとりにあった個別学習を行っている。

また、毎日の宿題を必ずするよう「宿題指導」も実施している。つまづきをなくすことをねらいとし、宿題で間違った問題や分からなかった問題を解きたい児童、宿題をしてこなかった児童に対して、少人数担当や学力向上アドバイザーが中心になり、毎日昼休み、算数教室で支援を行っている。

年3回「診断テスト」を実施し、子どもたちの苦手な項目を分析している。そして、朝の10分間の「かがやきタイム」でその弱点を中心にしたプリント学習を実施している。

(4) 家庭学習の推進

家庭学習を支援するために、年度初めに「家庭学習のすすめ」を全児童に配布し、学期に1回「家庭学習 week」を実施し、積極的に家庭学習に取り組む習慣の確立に努めている。また、宿題以外に自ら取り組んだ学習を自学プリントに書く取り組みも昨年度から行っている。

◎これからの取組

研究教科の国語を重点的に取り組んでいるにもかかわらず、今年度の全国学力・学習状況調査の結果では、国語が依然として全国平均との差があり、引き続き研究を深める必要がある。本校の課題を改善するために、以下のことに取り組んでいく。

- 文章の中の重要な部分をまとめて短く表現する力を育成する「要約プリント」を、朝学の語彙力「ことばプリント」に加え、実施していく。
- 各教科の中で、自分たちで課題を見つけ、調べて発表する学習や、話し合う、意見をまとめる活動を、積極的に取り入れていく。
- 全学年で実施している算数の問題解決型学習はこれからも継続して行っていく。今回の全国学力・学習状況の結果からも、根拠を説明する力や自分の考えを表現する力に課題がある。自分の考えを書く活動とともに、ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、児童が自分の考えを表現する機会をより多く設定する必要がある。
- 少人数・習熟度別指導では基礎基本の定着をはかるとともに、応用的な問題を解くなど、個に応じた習熟度別学習をより効果的に行っていく必要がある。また、つまづいた問題をできないままにしないよう、宿題指導をはじめ、個に応じた学習指導の徹底を引き続き行っていく。
- 自ら家での学習の計画を立て、予習、復習など、進んで行おうよう勧めていく。また、教室・図書室の本の環境を整え、読書量を増やすよう、読書活動を継続していく。